

学内六報

2023.9.25

no.1574



七大战を盛り上げるパレードで本郷通りを練り歩く応援部一行（8月19日）



2016年以来的の
パレードでした



ノーベル賞作家と戦後文学の軌跡を辿る無二のアーカイブ

大江健三郎文庫、発足

保健センターが女性診療科を開設

ドナルド・マクドナルド・ハウス東大とは？

ノーベル賞作家と戦後文学の軌跡を辿る無二のアーカイブ

大江健三郎文庫、発足

大江健三郎文庫が9月1日にオープンしました。1.8万枚におよぶ自筆原稿のデジタルアーカイブ、4000点に迫る関連資料、60年をかけて整備された独自の書誌情報データベースからなる、研究者のためのプラットフォーム。文庫運営委員長への取材から、日本の大学で初となる試みについて紹介します。



©森清 / 講談社

沼野充義先生が橋渡し役に

2018年に講談社が全15巻の全集の刊行を始めた際、各巻の装丁には出版社や編集者から託された多くの自筆原稿が使われました。その後、これらの原稿をどうするかを全集の編集者と解説者が検討した結果、母校の東大に寄託する案が浮上。お二人と旧知の沼野充義先生（現・名誉教授）に打診があったことから、文学部での検討が始まりました。沼野先生が在籍する現代文芸論、大江さんが在籍したフランス文学、そして国文学。3つの研究室が中心となって、大江文庫設立準備委員会が発足しました。

「光栄なお話でしたが、作家の何万枚もの自筆原稿を預かった例はありません。早稲田大学の村上春樹ライブラリーのように立派な部屋を用意する余裕也没有ありません。どう着地すればいいのか、悩ましい問題でした」

そう振り返るのは、現代文芸論研究室の阿部賢一先生です。折しも、情報学の犬向一輝先生が国立情報学研究所から文学部の次世代人文学開発センターに着任していました。紙のままでと限られた人しか見られ

ませんが、デジタル化すれば多くの人がアクセスできるようになります。大江文庫は、デジタルアーカイブの新しい形を探る人文情報学のプロジェクトとして位置付けられました。

2021年1月に寄託契約を締結し、自筆原稿などが文学部に。デジタル化作業が進められた一方で、著作権の問題もありました。実は、著作権が切れていない著名作家のデジタルアーカイブは日本では稀。阿部先生によれば、かこしま近代文学館による島尾敏雄自筆原稿の画像公開例がある程度です。

「今回は著作権継承者であるご家族が最後まで丁寧にやりとりを続けてくれました。寄託はもちろん大江さん本人の明確な意志によるものです。3月に訃報を聞いた際には、しっかりやれと託された気がしました」

「見せ消ち」が伝える推敲の跡

手書きを貫いた大江さんが残した18023枚の自筆原稿の端々から、推敲を繰り返しながら作品を仕上げた軌跡が伝わります。万年筆で第一稿を書いた後、削除や加筆の指示を何か所も書き入れた原稿用紙の多くは、修正が多いのに読みにくありません。

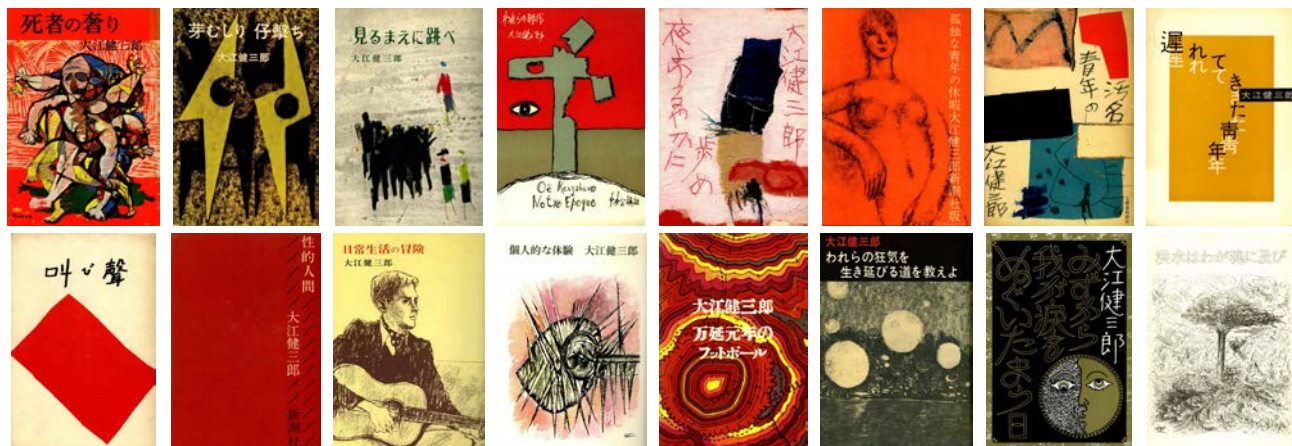
「画数が多い字でも省略せず丁寧に書いていて、字の読みやすさは最後まで変わりません。「悪」を「悪」と書くなど旧字体を選び続けたのも特徴的。初期は万年筆、90年代以降は青や緑の色鉛筆を使って消した上に言葉を紡いでいます。この「見せ消ち」のおかげで創作過程を辿ることができます」

作家に限らず、完成形だけ見せたいと思うのが人情のはず。舞台裏まで見てよいとした点に作家の大きさが見えるようです。手書きを数十年にわたって続ける作家が今後も現れるとはなかなか考えにくいことです。大江文庫の自筆原稿コレクションは、一人の作家と戦後文学の軌跡だけでなく、筆記媒体の変遷をも示す文化資産となるでしょう。

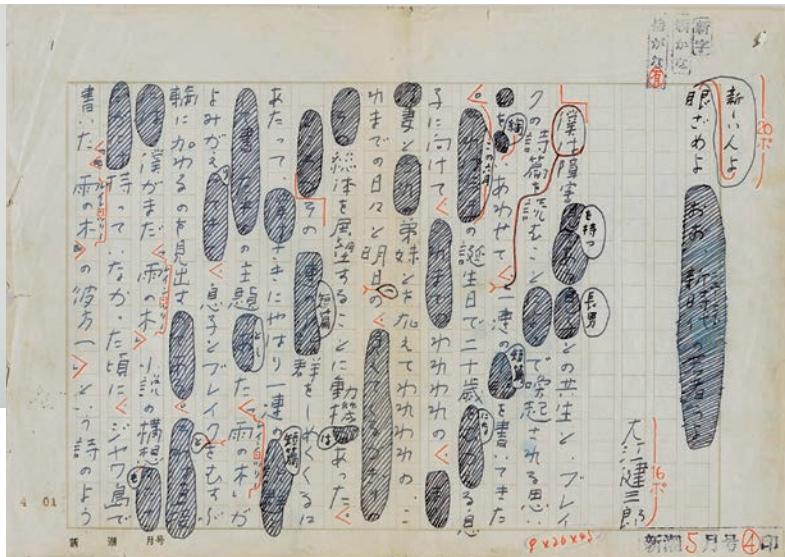
60年集め続けた資料が文庫に

大江文庫のもう一つのコレクションを構成するのは、森昭夫さんの寄贈資料です。石川県的高校教師だった森さんは、大江さんと同世代。デビュー時に注目して以来、60年以上も一番の読者であり続けてきました。

「著作はもちろん、大江さんが帯文を書いた本、登場した雑誌、誰かが大江さんに言及



↑大江文庫所蔵の貴重な初版本の数々（1958～1993年）。森さんの寄贈資料をスキャンし、書誌情報データベースに反映したもの。文庫のホームページの作品年表



東京大学文学部大江健三郎文庫 ©大江健三郎著作権継承者

した媒体までを集め、それらの情報を独自様式でまとめた続けました。もちろんインターネットのない時代から。ものすごいことです」

その成果を編集した私家版の書籍『大江健三郎書誌稿』は、著作の初版日、関連図書、帯文の内容、掲載時の文字級数など、一般的な書誌情報には入らない研究者垂涎の情報を網羅。森さんが集めた1360点の図書と2528点の雑誌類に加え、このデータベースも大江文庫に寄贈されました。図書・雑誌は文庫に来ないと見られませんが、書誌情報データベースは誰でもウェブサイトから閲覧することが可能です。

「文学部が資料を囲い込むのではなく、研究のプラットフォームを目指しています。障害、ケア、ヒロシマ、沖縄、核兵器、想像力など、多様なテーマを内包し、狭い意味の文学研究だけではない広がりを持つのが大江作品。ホームページやセミナーなどを通じてその一端を発信することも行っています」

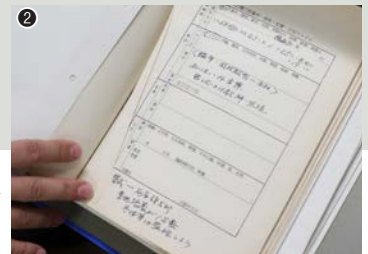
文庫発足記念式典が 9月1日に開催されました



会場は法文2号館1番大教室。藤井輝夫総長と研究科長の納富信留先生の挨拶の後、来賓として大江さんのご家族が登壇。「空の怪物アグイー」の草稿が書斎の古い段ボール箱から発掘され、持ち上げたら底が抜けたとの逸話に客席がどよめきました。阿部賢一先生が文庫の概要を紹介し、オンラインで登壇した沼野善義先生は設立に至る経緯を報告。野崎欽先生（写真左）が「大江健三郎とフランス文学」、全集を解説した尾崎真理子さん（写真右）は「未来へ、つなぐ者として」と題して記念講演を行い、準備委員長だった国文学の安藤宏先生が閉会の挨拶を務めました。

「新しい人よ眼ざめよ」(1983年)の自筆原稿では、当初題名が「眼ざめよ、おお、新時代の若者らよ」だったことが見せ消ちからわかります。『水死』(2009年)では、自筆原稿・初校・再校・三校と4つのバージョンを比較することが可能。

- ① 森さんのスクラップ帳。資料一枚ごとに詳細情報が記されています。
- ② 文庫に収められた初版本の数々。昔読んだ版と比べるだけでも楽しそう。
- ③ 弥生にある文庫閲覧室。自筆原稿はこの部屋の端末からのみ閲覧可。『犠牲の森で』(東大出版会)で南原繁出版記念賞を受賞した大江研究者・菊間晴子先生が常勤します。
- ④ 自身が携わる草稿研究の面からも文庫に大きな可能性を感じるという阿部先生。
- ⑤ 開室は月・金曜の10～12時と13～15時。利用にはホームページから事前の利用申請と予約が必要。研究・教育を目的とする人が対象です。



大江健三郎文庫運営委員長／人文社会系研究科准教授
阿部賢一



ページで、評論も含めた全初版本のカバーが見られます。→ <https://oe.l.u-tokyo.ac.jp/> 大江文庫所蔵の図書資料は東京大学OPACから検索できます。

保健センターが 女性診療科を開設

全学のD&Iを推進する一助に

10月1日、保健・健康推進本部が保健センターに女性診療科を開設します。女性診療科は、東大病院には従来からありますが、日本の大学の保健センターでは類を見ない試みです。昨年度から検討を重ねてきた保健・健康推進本部の執行部と実際に診療を担う現場の皆さんにお話いただきました。



保健師
古田明子

保健・健康推進本部
本部長
秋下雅弘

内科医
立石晶子

副本部長
柳元伸太郎

女性診療科医
中西恵美

女性特有の症状がある人が対象

中西 一般的に言えば、生理痛や生理不順、月経前症候群、更年期、不妊といった女性特有の症状を診療するのが女性診療科です。

秋下 従来はそうした症状への対応を内科診療の枠組みで行ってききましたが、より専門的に対応し、相談・診療体制を強化できないかとの思いがあり、全学のD&I促進の観点でも重要と考えて検討してきました。

週に3日、本郷、駒場、柏に分けて開設します。新入生が多い時期は駒場で多く開設するなど、配分は状況に応じて調整します。

柳元 米国では一般的ですが、日本の大学の保健センターでは先進的な試みです。日本では婦人科の利用をためらう人が多いんです。生理痛に効く薬の利用率の低さが企業の生産性低下を招いているとの報告もあります。不調の際は助けを求めるものだとしてほしいです。女性診療科は東大病院にもありますが、紹介状が必要だったり予約が取れなかったりもします。比較的来やすいセンターにある意義は大きいでしょう。

立石 私は内科医ですが、保健センターで

も、診療をしていると婦人科系の症状を訴える人が女性受診者の2割程度いるかなと思います。このような方は、従来は外部の産婦人科クリニックなどへご紹介する必要がありましたが、今後は保健センターの女性診療科でも気軽に相談したり治療を受けたりすることができるようになりますね。

早く相談して適切な医療を

中西 私は東大病院の女性診療科・産科で診療を行ってききましたが、もっと早く来てくれたら、と感じることはよくありました。早く相談すれば適切な医療を受けられます。気軽に相談できる場を作りたいんです。治療以外の対処法を考えるのも私たちの仕事。性感染症や避妊など知識で解消できる不安もあるでしょう。海外ではユースクリニックが普及し、生理や不妊も含めて若い人が体の悩みを気軽に相談しています。保健センターがその役割も担えるとよいですね。

柳元 妊娠や出産、避妊、性感染症、生理に関することなど、十分な知識を持たない方も多いと思われます。正確な情報を伝え、構成員が人生を通して活躍するための大事

な時期を側面から支援したいです。

秋下 女性診療科の医師は現状一人だけですが、東大病院の女性診療科・産科が全体で現場を支える体制を整えています。女性診療科が開設されない日には内科の医師が話を聞いて連携することになるでしょう。

古田 窓口で患者さんの話を聞いたり、健康診断で症状を聞くのが私たち保健師の仕事です。婦人科の受診を勧めても市販薬ですませる人もいますが、「相談」なら「受診」よりハードルは低いはず。若い頃に相談に来れば、更年期で困った際に相談の経験が糧になるかもしれません。気軽に相談してよい場だという認識が広がれば、長い目で見て多くの人の助けになると思います。

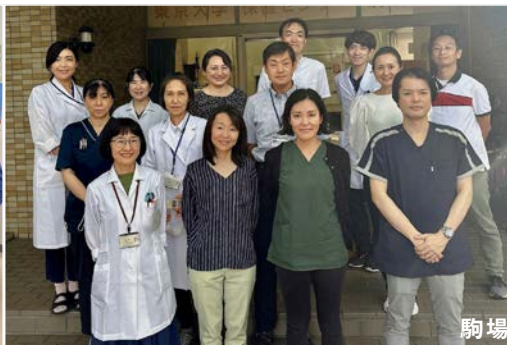
秋下 保健師への相談だけで留めることもできます。保健センターでは女性保健師が対応できますから、安心して相談してほしいですね。

中西 せっかく医療機関に行こうと思ったのに、予約や紹介状が必要と聞いて躊躇し、何年もたって症状が悪化してしまう患者さんを見てきました。どうか悩みを一人で背負い込まずに相談に来てください！

東大構成員の健康をバックアップ! 保健・健康推進本部 各地区保健センターの皆さん



本郷



駒場



柏

病院で治療する子の家族が滞在する「第二のわが家」

ドナルド・マクドナルド・ハウス 東大

東大病院の近くで右の建物を見て「何かな？」と思ったことはないでしょうか。実はこれは、入院する子に付き添う家族が安心して滞在するための建物。公益財団法人ドナルド・マクドナルド・ハウス・チャリティーズ・ジャパンが運営するこの施設について、ハウスマネージャーに聞きました。



ドナルド・マクドナルド・ハウス 東大
ハウスマネージャー
伊藤 太郎さん

アメフト選手の呼びかけで誕生

ドナルド・マクドナルド・ハウスは、1974年に米国で生まれました。きっかけは、アメフトのフレッド・ヒル選手の娘さんが家から遠い病院に入院したこと。ヒル選手は入院中の子に付き添う親の不便さを痛感しました。食事を自販機ですませたり、窮屈な姿勢で添い寝したり。家族が安らげる滞在施設が病院のそばに必要なと思った彼は、近所のマクドナルドのオーナーや、病院の医師、チームメイトなどに呼びかけ、その想いに賛同した地元新聞社から家屋の提供を受けて、第1号の施設が誕生したのです。以後、ハウスは世界中に広がり、現

在では49の国と地域に386カ所あります*。

日本では全国12ヶ所で稼働中。8番目となる東大ハウスは2011年にオープンしました。東大病院の小児科にはNICU（新生児集中治療室）があり、新生児を産んだ母親の利用が多くなっています。利用料金は、病院で治療する子が無料でその家族は1日1,000円*。運営はご寄付で賄われ、マクドナルド店頭の募金箱や、ハッピーセットの売上の一部も役立っています。北澤豪さん、瀬古利彦さんといった著名人の皆さん、明治安田生命やプロ野球選手会など多くの企業・団体にもご支援いただいています。

滞在中の食事は、基本的に4階の共有スペースのダイニングで摂っていただいています。自室に閉じこもるより境遇の近い人同士で交流してほしいという考えからです。働き盛りのご家族も多く、WiFi完備のハウス内で仕事することも可能です。

24時間365日の稼働ですからスタッフだけでは人手が足りません。頼りになるのは約200人の登録ボランティア。ハウスキーピングも夜勤番もお願いしています。以前、病気で東大病院の院内学級に転校し、元の

学校に近況を伝える壁新聞を作った子がいました。いまは大学生でボランティアの一人です。東大生が中心のサークル「マイハウス」は募金やイベントを手伝ってくれています。工学系研究科とヒューリックの社会連携講座は入院中の子の体験学習会をハウスで実施していて、8月には大田隼一郎先生ほかの皆さんの指導の下、鉱物を顕微鏡で観察しました。先日の募金イベントではグローバル教育センターの協賛もありました。日々多くの皆様に支えられています。

店舗と勘違いして来る人も……

ハウス運営委員会の委員長は歴代の病院長です。募金活動をさせてもらうこともある病院では周知が進みましたが、ほかの教職員や学生さんには知られていないのが実情です。マクドナルドの店舗かと思って入ってくる人もいます。地方から上京して本郷構内でハウスの場所を尋ね、「それは何ですか？」と言われて不安を覚えたという利用者もいます。これを機にハウスを知り、道に迷っている人を見かけた際には優しくご案内いただけたらうれしいです。

①2022年には291家族を受け入れた東大ハウスのロゴ。②③④1階のロビーには支援者のサインや寄贈された記念品や本が多数。西武ライオンズの中村剛也選手のサイン入りユニ

フォームや、漫画家のゆでたまご先生が描き下ろした白衣のキン肉マンパネルも。⑤⑥廊下の壁は趣のある木目調。病院で長期治療を受けていた患者さんが近況を旧友に伝えよう

と作成した壁新聞が展示されています。⑦全12室中で一番広い部屋には5人まで宿泊OK。電動ベッドもあります。各部屋の表示には、ハウスの理念に賛同したディック・ブル

ーナさんのイラストが使われています。⑧共有スペースに直結の屋上庭園。⑨共有スペースは、冷蔵庫や調理器具を備えたキッチン、テーブル、プレイルームがある憩いの場です。



ドナルド・マクドナルド・ハウス 東大



*2023年8月現在 ※ほかにリネン代（実費）が必要

教養教育の現場から

第59回

リベラル・アーツの風

創立以来、東京大学が全学をあげて推進してきたリベラル・アーツ教育。その実践を担う現場では、いま、次々に新しい取り組みが始まっています。この隔月連載のコラムでは、本学の構成員に知っておいてほしい教養教育の最前線の姿を、現場にいる推進者の皆さんへの取材でお届けします。

3部門を統合して「教育DX」推進の新部門に

／教養教育高度化機構(KOMEX)第5代機構長に聞く

機構長

原 和之



生成系AIも検討するEX部門

——今年度、組織が変わりましたね。

「時代ごとのニーズに対応する形での部門名変更はこれまでも何度もありましたが、今回は部門の統合も行いました。一番大きな変化は、自然科学教育高度化部門、初年次教育部門、アクティブラーニング部門を統合して、EX (Educational Transformation) 部門としたことです。UTokyo Compassが目指す「教育DX」をKOMEXでも推進しようとの方針のもと、前機構長の頃から準備を進めてきたもので、3部門の統合により23人のメンバーを擁する大所帯となりました。旧3部門が担ってきた活動を引き続き行うのに加え、教養教育におけるデジタル技術についても検討します。生成系AIの利用では成績評価をどうするかといった問題もありますが、技術的变化をしかと受け止めて教育DXに活かすことが重要で、その中核を担うのがEX部門です。具体的な検討はこれからですが、EX部門が担当する来年3月のシンポジウムで何らかの方向性を示せるかと思います」

「もう一つの新部門が、前回の本欄に登

場したD&I部門です。駒場キャンパスSaferSpace (KOSS) の運営に加え、前期課程教育へのD&I実装を重要な任務と考えて設置しました。昨年のA semesterから福永玄弥先生と飯田麻結先生を中心に準備を進め、4月から講義と演習のD&I関連授業を行っています」

——部門名称の変更もありました。

「科学技術インタープリター養成部門を科学技術コミュニケーション部門に変更しました。2010年から続く大学院の副専攻科目、科学技術インタープリター養成プログラムの運営が主たる任務ですが、科学技術コミュニケーションの研究と発信も重要なミッションに据えており、より内実に沿った名前に更新した形です。「ネイチャー・ウォッチング」や「科学コミュニケーション・カフェ」のような企画も加え、教育・研究・発信という3つの柱を軸に活動を展開していきます」

元法務技官や精神科医も加入

——新しい先生も続々と増えています。

「EX部門の初年次教育担当に宮島謙・横沢匠の両先生が加わりました。社会連携部門には、金曜特別講座担当の小檜山

明恵先生に加え、法務省矯正局の法務技

官兼法務教官の経験がある山岡あゆち先生が4月に着任しました。環境エネルギー科学特別部門には、部門長の瀬川浩司先生とともに有機系太陽電池などの研究に携わってきた中崎城太郎先生と野々村一輝先生が6月に加わりました。SDGs教育推進プラットフォームには、国際協力機構で活動してきた精神科医の田中英三郎先生が9月に着任します。先述のD&I部門のお二人も含め、多様な背景を持つ先生方が集ってくれました」

「教養学部的前期教養教育において、部会や学科といった従来の枠組みに収まらない分野を担うのがKOMEXです。その多くは、横断的だったり、先進的だったり、社会に近いところから出てくる分野です。社会連携部門の活動はもちろんですが、D&I部門やEX部門、2019年度に発足したSDGs教育推進プラットフォームも、その流れで生まれたものだと言えるでしょう。社会の変化に応じて大学の組織も変わります。成長し続けることを運命づけられたKOMEXの機構長としてその流れを止めないよう努めます」

今年度新任教員の顔ぶれ

※D&I部門の福永・飯田先生は1572号参照

山岡あゆち
(犯罪心理学)中崎城太郎
(有機化学)宮島 謙
(物理化学)野々村一輝
(電気化学)田中英三郎
(精神医学)横沢 匠
(生命科学)

今年度からKOMEXは、6つの部門 (EX、D&I、科学技術コミュニケーション、国際連携、社会連携、環境エネルギー科学) と、6部門の連携によるSDGs教育推進プラットフォームとで構成されることになりました。

8～9月に開催されたKOMEXのイベント

8月28日

「異次元エネルギーショックへの日本の対応」東京財団政策研究所オンラインシンポジウム (後援/環境エネルギー科学特別部門)

9月3日

ワークショップ「第4回 東大生がつくるSDGsの授業」(EX部門)

9月21日

第7回 模擬国連ワークショップ (EX部門)

ぶらり 構内ショップの旅

第17回

カフェ・カポ・ペリカーノ @本郷キャンパス の巻

行列のできる鉄門カフェ

医学部教育研究棟1階入口脇にある「カフェ・カポ・ペリカーノ」(通称・鉄門カフェ)。同研究棟13階にあるイタリアンレストラン「カポ・ペリカーノ」が運営する、おにぎりやお弁当をメインに販売するお店です。「学内の人に気軽に利用してもらえるお店」として2006年にオープンしました。

お昼時にできる長い行列を一人でさばくのは、約10年前から働いているという成田美花さん。毎日3台の炊飯器を使って炊き込みご飯と白米を炊き、60〜70



成田美花さん

個のおにぎりを握っています(各160円)。「食べるときにふわっとしているおにぎりがないなと思っているので、硬く握らないようにしています」と話す成田さん。大きめで塩加減が絶妙なおにぎりの具材は10種類くらい。明太子や納豆などほぼ固定の具材に加え、子持ちきくらげやベッパパーソーセージマヨなど、その時々入荷した食材で作った具材が登場します。売り切れてしまった場合でも、お米が残っていれば握ってもらえるそうです。おにぎりと一緒に頼む人が多いという豚汁は、猛暑日が続いた今年の夏でも注文する人が多かったとか。

おにぎりと一緒に人気の、レストランのシェフが作るハンバーガー、唐揚げ、麻婆豆腐などの日替わり弁当(750円)。カレーライスは火、木、金の週3日。残りの2日はハヤシライスを提供しています(500円、大盛は550円)。サラダや和牛メンチカツなどの惣菜(200円〜)は4〜5種類並びます。

たくさんの人が毎日お店に来てくれるのが本当に嬉しいと話す成田さん。「美味しかったと伝えてくれる人も多く、それがとても嬉しいです」



ふわっと握られた大きめのおにぎり。千葉県多古町産のお米は美味しいと評判で、それを生産者に伝えたところ喜んでくれたとか。営業時間●11:30-14:00 定休日:土、日、祝

#WeChange Now

第3回

男女共同参画室通信

ジェンダー・エクイティ研修を実施中

今回のコラムでは、この9月からスタートした「ジェンダー・エクイティ研修」についてご紹介します。

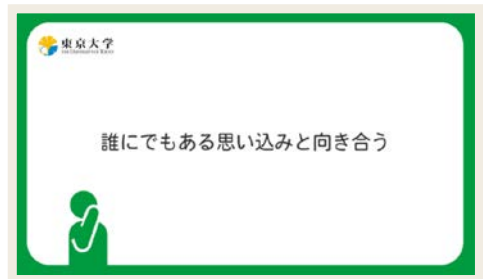
本学の理念と基本方針を示したUTokyo Compassでは、「世界の誰もが来くなる大学」を方針の一つとして掲げています。その実現のためには、大学全構成員の意識改革によるキャンパス文化の変容が重要です。

男女共同参画室では、2022年度にジェンダー・ジャスティス研修ワーキンググループ(WG)を立ち上げ、ジェンダー不平等の解消と是正実現のための基盤整備として、教職員を対象とする各種啓発、研修の枠組みを検討しました。また教職員が毎年受講する「ジェンダー・エクイティ研修」を2023年度より実施することを検討し、そのための研修教材を開発しました。2023年度の研修テーマをジェンダー・バイアスとし、「誰にでもある思い込みと向き合う」というタイトルでe-learningの研修プログラムや動画、教材を作成しました。ステレオタイプの脅威や好意的差別、マイクロ・アグレッション等の事例も取り上げています。動画を視聴し、確認テストを行うものになっています。

これは、「UTokyo 男女協働改革 #WeChange」の目標I、行動計画Iの「男女協働改革への基盤整備——マジョリティ側の意識改革——」の取組の一つになります。東京大学構成員全員の意識改革によって全学のジェンダー・バランスの適正化を図り、多様性重視の大学に変革することを目指しています。

2023年度のジェンダー・エクイティ研修は9月6日〜10月31日まで実施していますので本学教職員の皆さまには実施についての通知をご確認の上、必ず受講をお願いいたします。

(特任准教授 小川真理子)



ジェンダー・エクイティ研修の教材画面より

<https://wechange.adm.u-tokyo.ac.jp/ja/>

ワタシのオシゴト 第208回

RELAY COLUMN

先端科学技術研究センター 新エネルギー分野 岡田研究室・特任専門職員 **千本松 美佐**

研究室でも国際交流



先端研のシンボル・文化財指定の時計台と

先端科学技術研究センター岡田研究室にて、海外との研究交流のお手伝い、留学生や外国人研究者の受入手続きなどを行っています。コロナ禍前は、研究室所属の教職員や学生、留学生や外国人研究者を交えて一緒に

先端研内のイベント準備で調理をしたり、楽しく国際交流を行うことも多くありました。今年の9月にもフランスからJSPS外国人特別研究員を迎えました。

岡田研では、毎年、東京大学全体で行う海外の大学との研究交流イベントや、先端研とCNRS（フランス国立科学研究センター）との間で開催される「新エネルギー研究連携（NextPV）に関する国際ワークショップ」に参加しています。近年は残念ながら、オンライン開催が主流でしたが、また徐々にハイブリッドや対面式のイベントが増えてきています。イベントのお手伝いをしていると、研究の最先端を覗くことができるのも楽しみの一つです。また、全学の国際交流を通じて、他部署の教職員の皆様と広く交流ができるのも、この仕事の魅力です。



国際交流イベントの準備をする岡田研の方々

得意ワザ：わからないことは悩まずに人の助けを借りる
自分の性格：粗忽な小心者なので、穏やかに進む仕事が好き
次回執筆のご指名：谷口沙恵さん
次回執筆との関係：社研のSSJDA[®]での同僚
次回執筆の紹介：努力家で、上司の信頼厚きママ

専門知と地域をつなぐ架け橋に

FSレポート!

第26回

教養学部卒 **武藤彰宏**
農学生命科学研究科博士課程2年 **高橋 葵**
農学部4年 **服部美里**

37人の集落が挑む日本酒プロジェクト

伊勢神宮から車で1時間ほどのところにある、三重県南伊勢町・道行庵集落は、平氏にツールを持つ南島ハケ庵の1つです。リアス海岸の風光明媚な入江に位置し、現在は37人が農業を営みながら暮らしています。FSでは最小の活動フィールドです。

道行庵とFSの繋がりは2019年から始まりました。耕作放棄地を復活させて、コシヒカリや酒米「神の穂」を栽培する「日本酒プロジェクト」を軸に活動を繋いできました。高齢化や米価の下落により



初回現地活動での集合写真

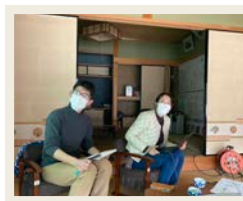
農業を取り巻く環境の厳しさが増す中で、代々耕してきた土地が次々に放棄されていく現状に直面した住民が、地域の付加価値向上を目指すために立ち上げた

NPOを中心とするプロジェクトです。酒造メーカーや行政、大学との連携を深めながら、今年の秋で5年目の収穫を迎えます。

我々に与えられた課題は、このプロジェクトと地域の将来を描き出すというものでした。「日本酒プロジェクト」は、米作りや経営、販路開拓など地域が持つノウハウやスキルのコラボレーションです。良質なお米を育て、付加価値を高めて販売する取組が軌道に乗ってきたからこそ、道行庵で活動を続けていくための中長期的なビジョンの必要性を感じました。

6月からZoomでのミーティングを重ねつつ、2回の現地活動を受け入れていただき、圃場や販売所から集落のマル秘絶景スポットまで現地を歩き回ってきました。お米やお酒も実際に口にして、文字どおり地域を味わい尽くした1年でした。道行庵の方々と率直な意見や考えを交わす中で、プロジェクトへの強い覚悟と地域への深い愛着に触れたことが印象に残っています。

NPOの活動を持続的なものとし、集落を将来に繋いでいくためには、プロジェクトを担う人材と資金を安定的に確保する必要があります。私たちは、目標を段階的かつ具体的に提示し、販売と広報の2つの視点から戦略を提案しました。活動期間は終了しましたが、第2のふるさと・原点として関わり続けていくことが、道行庵の未来を拓く一歩になると信じています。



現地報告会での一コマ

インタープリターズ・ バイブル

第193回

総合文化研究科准教授
科学技術コミュニケーション部門

豊田太郎

Newsとの付き合い方

化学の研究室を主宰している私は、実験室内のNewsに日々気を配っている。立案通りの実験結果は“発明”につながり、そうでない結果は意図しない“発見”となる可能性がある。実験室の安全管理者として、事故やヒヤリハットは特に大事なNewsであり、すぐに対応する必要がある。実験メンバーから実験内容を詳細に聞き、何がNewsなのかを理解するようにしている。

社会にもNewsはあふれている。その中で、科学者側から社会へ発信できる良質なNewsとは何かを考えたとき、私にはテレビのニュースとお付き合いした二つの夏の思い出がある。一つは、基礎研究の成果報告についてプレスリリースをおこない、記者からの問い合わせにこたえた時のことだ。本学広報課の担当者と周到にプレスリリースを準備し、発表後も、各々の記者に研究成果を説明し、その意義をアピールした。放送時間には上限があり他のニュースとの兼ね合いがあるため（夏は台風などの天候に関連する報道が多くなる）、何事もなく放映されるとは限らない。3分間であっても、研究成果を紹介するニュースが無事に放映されたときは、深い安堵を覚えたものだ。

もう一つは、社会的関心の高い事件が発生した際、専門家としてコメントを求められた時のことである。上記のニュース取材の一月後、突然のことだった。医療への応用を考えていた私の研究課題を擦過したその事件は、私にとっても大変ショックなものだった。速報性の高さが優先されたため、記者からの問合せの翌日に取材が設定され、あり合わせで対応した。コメントを準備する時間が短かったので、その事件のニュースや記事をチェックし、私のコメントで誤解される可能性がある表現だと判断した場合には、報道機関に直接電話で修正を依頼した。基礎研究に研鑽を積む日々だけに胡坐をかいてはいられない、普段の研究教育活動とは異なる社会と接することの重要性を痛感した経験だった。この経験も、つい先日のことのように緊迫感をもって思い出される。

いずれの場合も取材記者との連携が重要だった。これまでの記者は、私の話によく耳を傾けてくれて、良いニュースにしてくださった。良いNewsに出会う秘訣はそこにあることを私は学ばせてもらった。

科学技術インタープリター養成プログラム
<https://scicom.c.u-tokyo.ac.jp>

ききんの

寄付でつくる東大の未来

き

第47回

社会連携本部渉外部門
副部門長

高橋麻子

人生に向きあう遺贈寄付

9月13日はInternational Legacy Giving Day＝国際遺贈寄付の日。日本では9月11日～9月17日を「遺贈寄付ウィーク2023」として、遺贈寄付について考え、学び、伝え、行動するキャンペーンが展開されました。遺贈寄付とは、個人が亡くなった時に、亡くなった方や相続人が、遺言や契約にもとづき、財産を公益法人やNPO法人などに贈ることです。日本で遺贈について語ることは、数年前まではややタブー視されていましたが、コロナ禍をきっかけに、終活ブームも後押しして、今では前向きでポジティブなイメージもついてきました。

高齢化が進む近年、新たな社会貢献として注目が高まっており、東京大学でもコロナ禍以降、遺贈の問合せや相談が年々増加しています。関心が広がっている背景には、生涯独身の方や子どものいない世帯の増加もありますが、最近では子どもがいる世帯や現役世代でも遺贈寄付を検討する人もみられるようになりました。

遺贈寄付のメリットはいくつかあります。ひとつは、税金の優遇措置です。東京大学への遺贈の場合、相続税の課税対象にならず、所得税・住民税の控除なども受けられます。もうひとつは、遺贈寄付を通じて社会貢献ができること。遺産の用途を指定することができ、例えば、教育、研究、医療、文化保全など、関心を持つ分野の発展に寄与できます。また感謝の意を受け、名誉をたたえ銘板などに名前を刻むこともあります。

そのほか、遺贈を検討すること自体にメリットがあると言えます。遺贈をしようと具体的に考えたとき、まずは寄付先や用途、金額を決めなければいけません。お金は死後まで持つていくことはできません。自分は何に価値を置くのか、これまでの人生を振り返り、遺される家族や世の中がどうなっているのか、人生観に向き合い深く問うことになります。これこそが終活の起点でしょう。遺贈寄付は必ずしも高額である必要はなく少額から可能です。どの年代でも早すぎるということはありません。まずは「自分はどこに遺贈するか？」と考えてみてはいかがでしょうか。



遺贈ミニパンフ配布中です

東京大学基金事務局（遺贈相談窓口）
legacy.adm@gs.mail.u-tokyo.ac.jp

トピックス 全学ホームページの「UTokyo FOCUS」(Features, Articles)に掲載された情報の一覧と、そのいくつかをCLOSE UPとして紹介します。

掲載日	担当部署・部局	タイトル（一部省略している場合があります）
8月23日	本部博物館事業課	第13回学生会館モバイルミュージアム
8月25日	本部学生支援課	七大学応援部・応援団による七大戦応援パレードを開催！
8月29日	本部学生支援課	七大戦馬術競技で東京大学が準優勝！
8月31日	本部協創課	東京大学とマイクロソフト、基本合意書を締結 ～GX・D&I・AI研究の推進に向けて連携～
9月1日	本部広報課	国際卓越研究大学の審査の結果を受けて（総長メッセージ）
9月1日	本部学生支援課	七大学応援部・応援団による合同演舞演奏会を開催！
9月1日	生産技術研究所	英文広報誌「UTokyo-IIS Bulletin」Vol.12を公開
9月5日	本部学生支援課	東京大学硬式野球部が七大戦2連覇を達成！
9月8日	本部学生支援課	東京大学ラクロス部が4年ぶりの七大戦優勝！
9月11日	総合文化研究科・教養学部	国際社会科学専攻の川島真教授が外務大臣表彰を受賞
9月11日	本部広報課	広報誌『淡青』47号（犬号）を発行

CLOSE UP 東京帝大総長の名を冠したゴルフ大会の賞杯を展示（本部博物館事業課）

「東京帝大総長賞 長与又郎氏寄贈 昭和十年十一月学生会ゴルフクラブ」との銘板を持つブロンズ像



東京大学発祥の地、神田にある学生会館には、2010年、学生会を構成する旧七帝大の紹介ブースが設けられました。以来、他の六大学がモニターやパネルなどで沿革、特色を紹介する中、本学は、総合研究博物館のモバイルミュージアム構想のもと、学術の歴史や展開を標本の一点展示で表現する試みを続けています。

本年9月開始の第13回展示では、「東京帝大総長賞 長与又郎氏寄贈 昭和十年十一月学生会ゴルフクラブ」との銘板を持つブロンズ像を公開します（写真）。作者は彫刻家の長谷川義起（1892-1974）。記録によれば、

1935（昭和10）年11月23日、赤羽ゴルフコースで行われた学生会主催ゴルフ競技の賞杯とみられます。学生会ゴルフクラブは1929（昭和4）年12月発足で、1930年代には当時の長与又郎（1878-1941）東京帝大総長の名を冠した大会も多く開催されていました。像のモデルは、1930年来日した米国の名選手、ウォルター・ヘーゲン（1892-1969）だと思われます。

昭和初期のゴルフ事情、帝大卒業生らの社交生活などに思いをはせていただければ幸いです。（総合研究博物館長 西秋良宏）

CLOSE UP 広報誌『淡青』47号を発行（広報室）

東京大学広報室が年に2回発行している広報誌『淡青』の最新号ができあがりました。

今号の特集は「犬と東大」です。大昔にオオカミから分岐し、人間とともに生きてきた動物、犬。神が人間界と動物界を分けた際、犬だけがその境を飛び越えて人間側に来たという伝説もあるそうです。おそらく人類にとって最古のフレンズであるけものと大学はどのように関係してきたのでしょうか。今年は東大に縁が深いあの秋田犬が生まれてから100年となる記念の

年。ということで、犬に関する研究はもちろん、本学が所蔵する犬にまつわる作品類、犬を愛する研究者によるコラム、愛犬家なら眉を顰めそうな昔の話まで取り揃えて紹介します。歴史的にもイメージ的にも、東大といえばやっぱり犬なんだワン!?

関東大震災100年の節目に安田講堂で2日間にわたって開催した大型シンポジウムの概要、東京大学ニューヨークオフィスの紹介、そして卒業生メディア「東京大学校友会ニュース」もあわせてぜひ一読を！

表紙は弥生キャンパスの名物、上野博士とハチ像です



UTCCからのお知らせ
utccu-tokyo.ac.jp

パールコラーゲン
オールイン
ワンエッセンス
UT（ジェル状
美容液）
2,000円（税込）



「パールコラーゲン」にジェル状美容液が仲間入り！

赤門北隣にあるコミュニケーションセンター（UTCC）をご存じですか？ 東大の研究成果商品や大学オフィシャルグッズを展開しています。このたび、東大と御木本製薬の共同研究で生まれた保湿効果の高い「パールコラーゲン」シリーズか

ら新商品が登場しました。みずみずしくしっとり感を有しながら、べたつかないオールインワンジェルは、無香料・無着色なので、性別問わず幅広い世代の方々にお使いいただけます。この秋、研究成果の力でみずみずしく潤う肌へ！

 UTOKYO



CLOSE UP GX・D&I・AI研究の推進に向けてマイクロソフトと連携 (本部協創課)



今後の連携に向けてそれぞれコメントした、藤井輝夫総長と、マイクロソフト ワールドワイドパブリックセクター担当 コーポレートバイスプレジデントのアンジー・ハイセ氏。

東京大学は、マイクロソフト コーポレーションと、Green Transformation (GX) と Diversity & Inclusion (D&I)、AI (人工知能) 研究の推進に向けた連携に関する基本合意書を締結しました。2022年11月に本学の藤井輝夫総長とマイクロソフトのサティア・ナデラCEOが面談し、GX、D&I等の推進について意見交換を実施。その後も両者の協力関係構築について継続的に協議し、本基本合意書を締結する運びとなりました。今後、基本合意書に基づき、社会への貢献と未来を担う次世代の学生の育成を目指します。

GXでは、本学の温室効果ガス排出ゼロに向けた取り組みをマイクロソフトのテクノロジーの活用で推進するほか、GXの本質を理解しその達成に向けた活動を担う人材である

「GX人材」の育成を支援します。D&Iでは、2022年6月に策定した「東京大学 ダイバーシティ&インクルージョン宣言」をさらに推進します。AI研究では、従来のコンピュータサイエンス分野でのAI研究に加えて、様々な分野において、AIの効果的な適用や課題に関する議論と研究を推進します。

藤井総長は「GXやD&I、AI研究における協創を通じて未来をリードする次世代の人材を育成するとともに、多様性が尊重され包摂される公正な共生社会の実現を目指します」と、マイクロソフトのアンジー・ハイセ氏は「両者のパートナーシップにより、マイクロソフトテクノロジーを活用することで、社会への貢献と未来を担う次世代の学生の育成を支援していきます」とコメントしました。



CLOSE UP 2016年以降の七大戦応援パレードを実施し、優勝へ (本部学生支援課)



東京大学主管で開催されてきた第62回全国七大学総合体育大会、通称「七大戦」。8月19日、本郷キャンパス周辺の沿道で、東京大学運動会応援部と、北海道・東北・京都・大阪・九州の各大学応援部・応援団によるパレードが、本富士警察署の協力のもと実施されました。パレードの実施は前回主管を務めた2016年以降のこと。七大戦を盛り上げるとともに、8月20日に安田講堂で開催された七大学応援部・応援団合同演舞演奏会のプロモーションも兼ねて行われました。

正門を出発したパレードの梯団(写真①)は、本郷通りを南下し、本郷三丁目交差点を左折した後、本富士警察署前を通り、ゴールの龍

岡門へ。パレード後は全大学の応援団が安田講堂前に集まり、デモンストレーションを行いました(②)。各大学応援団が個性に溢れた応援を行い、集まった方々を大いに盛り上げました。太陽の照り付ける真夏日でしたが、それに負けない熱い応援を見せました。

第62回七大戦では、6月にラクロス部男子が優勝し、7月に少林寺拳法部と剣道部女子が優勝。8月にはバドミントン部女子と硬式野球部が優勝。9月には体操部も優勝するなど、東京大学運動会の学生たちが躍動を続けました。他大の後塵を拝した時期もありましたが、東大の総合優勝が決まり、9月20日に閉会式が行われました。



CLOSE UP アジア・アフリカの学生との交流会を開催 ~8月のD&I関連イベントより



8月10日、東京大学・アジア女子大学 (Asian University for Women) 学生交流プログラムのシンポジウム「Empowering Migrants, Immigrants, and Refugees」が開催されました。本学学生11名とアジア女子大学の学生10名がともに学んだ10日間のまとめとして、基調講演者に土井香苗氏 (ヒューマン・ライ

ツ・ウォッチ日本代表) を迎え、ディスカッションを行いました。学生たちはプログラムの終幕に別れを惜しみながらも再会を約束し、アジア女子大学の学生はシンポジウムの翌日にバングラデシュに帰国しました。

8月30日には、アフリカ地域と本学との教育研究等の発展のため、交流促進に向けた取

組の一つとして、アフリカ諸国からの留学生との交流イベントが開催されました。イベントには18カ国から留学している学生29名が参加し、自国の文化を知ってもらうため、パネル展示や郷土品等を展示。自身の研究成果の発表を行うなど、留学生と来賓の方々や学内関係者の間で有意義な対話が生まれました。



トイレをめぐる30年

私が駒場キャンパスで新生だった頃、女子トイレは薄暗くあまり気持ちが良くなくて、しかも時々トイレを探すこと自体に苦勞した。トイレに生理用品の自販機もなかったから、突然生理が始まったりしたらそれだけでもう割とその日は詰んだ。

1980年代末の当時、東大の女子合格者が増えたともっぱらの評判で、文三だと実際女子比率はそれなりに高かった。生理用品自販機の設置を自治委員としてクラスから自治会に要望した記憶がある。それが直接の契機かどうかは知らないが、じきに駒場の女子トイレの一部に生理用品の自販機が入った。

それから30年以上が経ち、キャンパスのトイレに関する学生達からの要望に、学部側の人間として向き合うことになった。驚いたのは、自分たちの不便で頭がいっぱいだった当時の私たちに比べ、現在の学生たちが実に「社会的に」トイレについて考えていることだ。

学部が試験的に生理用品無償配布を始めると、学生自治会も学部と連絡をとりつつ、学部が設置しなかった場所、とりわけ男子トイレでの試験的配布を開始した。生理用品があると助かるのは女子トイレ利用者に限らない、という学生の声に応えたものだという。この

試みは学生からも好評で、今年度からは学部が引き継いで配布を続けている。改築や新築の予定される教室棟に、男女別のトイレだけではなくオールジェンダートイレも設置して欲しい、という要望も、学生から上がってきたものだ。自治会に限らずさまざまな学生団体が、学生の要望を取りまとめたり、学部に申し入れをしたり、実現に尽力してきた。

この学生たちは、無論自分たちの不便について考えているだろうが、それにとどまらず、トイレというとてもシンプルだが極めてクルーシカルな場の設定を、大学のD&Iに直接関わる問題として、正確に理解しているように見える。それは30数年前の私たちにはなかった視点だ。

東大構成員の女性比率は明らかに低すぎる。D&Iに関わる体制整備もようやくスタート地点といったところだ。けれどもキャンパスを構成する学生たちの知識や常識は着実に変化しているし、視点も刷新されている。希望はそこにある。

清水晶子
(総合文化研究科)

